

金融トピックス (9 8 / 1 2)

「韓国株式市場」醒目

お隣の韓国の経済が崩壊状態に陥って、IMFの金融支援を受けて四苦八苦していることは多くの方がご存知だと思うが、その韓国の株式市場が出来高で東京市場を上回り、この3ヶ月で90%以上も急騰していることは知らない方が多いと思う。これは何なのか？

主な買手は外国人投資家とのことであるが、財閥縮小解体、不良銀行強制整理、本格的雇用調整実施、等の経済構造改革が急ピッチで進み「韓国の変化」を買っているのだと思う。彼(韓国)我(日本)の変化の違いが気にかかる。

投信？「取扱いません」

今月から銀行で一斉に投資信託の窓口販売が開始された。開始されたと言っても、窓口販売が認められた(規制が緩和された)だけの話で、当然「やらない自由」もある。ところが全国の銀行で投資信託の窓口販売をやらない銀行はたった1行しかなかった。

やらなかった唯一の銀行(東邦銀行)の言い分は、採算に合わないリスク商品販売に自信が持てない、の2点である。この中堅地方銀行の選択が正しいかどうかは未だ判らないが、コストを無視して横並びで投信販売を始める金融機関が多い中で賢明な選択と云えるかもしれない。自信の持てない商品は売らない、それは商売の基本中の基本であろう。そうした見方からすれば、「商売の基本」を逸脱した銀行は多いように見える。そしてそれは、規制時代の行動原理を脱却出来ない銀行が未だに多いことを示している、と言ったら云い過ぎか？

債権放棄の《合理性》

融資先に対して債権放棄を行う場合、金融機関に無税償却を認めるかどうかの判断基準の概略が国税庁から示された。その基準によると《合理性》が重視されると云う。その合理性は、融資先の再建計画の適否 支援必要性の大小、が主たる判断基準となると云う。この基準からすれば中小企業は完全に蚊帳の外に置かれることになる。中小企業が倒れても「甚大な影響」は起こり得ないからだ。しかし、だから「×企業は債権放棄だ」と云われたら「それはよかったですね」とすんなり納得できるだろうか。

この《合理性》は中小企業など問題外だとい

う《合理性》のようだ。好き放題やった一部企業は救われるという《合理性》のようだ。おそらく、この国を救い難いモラル・ハザードが覆おうとしている。金融から発生してきたそれが国全体を包み込もうとしている。

「日銀の株価」が意味するもの

日本銀行は大蔵省(政府)が55%の株式を保有する特殊法人であるが、店頭登録市場に株式を公開している歴とした株式会社であり、取引量は僅かだが日々取引されている。この「会社」の業績は絶好調だが株価は低迷している。

日銀の株価推移は「円」の信用を象徴するものとして気にかかる。96年高値205千円、97年高値175千円、本年高値135千円と徐々に価格を切り下げ、遂に先月今月と95千円の最安値を付けてしまった。

金融システム不安による歯止め無い通貨資金供給でバランスシートが悪化していることが主因と思われるが、日銀の株価は単なる一企業の価値を表わすに止まらず、円という通貨発行元の信用を表わすものと見なければならない。

横浜銀行、失態・失笑

地銀最大手横浜銀行が「失態」をやらかした。例の特別保証制度の創設を「千載一遇のチャンス」として、自行の問題債権を保証協会付き融資に切り替えるよう指示した内部文書が外に漏れてマスコミや政治の攻撃に晒された。銀行内の狼狽振りが目に浮かぶが、「銀行を良くする為にやっていることで何が悪い」と開き直れない所にこうした組織の衰れさを垣間見た。

中小企業経営者は自社が「こうした銀行」と取引していることを肝に命じなければならない。

債券暴落(=長期金利急上昇)

今週債券が暴落、長期金利が急騰した。この現象は、国債の大量発行による需給懸念と云われているが、それ以外に国の信用力低下 財政投融资予算の限界、等がある。債券暴落は結果に過ぎない。その背後にあるものは何なのか、見極める必要がある。

いろいろ勝手なことを申し上げ失礼いたしました。激変の98年もあと数日となりました。皆様それぞれに良いお年をお迎えください。